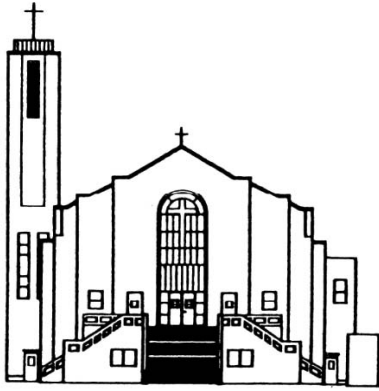




田園

三月号

聖フランシスコ カトリック田園調布教会

(No.620. 2013. 3. 1)

発行責任者 矢野 勉

☎ 03 (3721) 7271

〒145-0071 東京都大田区田園調布3-43-1

神の民としての司祭職

アントニオ金

きむ

東炫神父

どんひょん



去年十月から今年にかけて私たちは信仰年を過ごしています。

第二バチカン公会議を記念する信仰年は、公会議の刷新の精神を振り返って、教会を通して与えられた神の恵みに感謝する恵みの時であるのは確かです。これからも刷新の精神が続けられるようこの恵みの時、私たちは各個人の信仰生活を教会の教えに従って見直すべきではないかと思われまふ。ある教会では各個人の刷新を求め、勉強会をつくり、公会議の教えを学んだり、公会議の公文書と一緒に読んだりしています。

公会議以後、教会には大変大きな変化がありました。その中でも、罪を裁く教会から神の愛が溢れる交わりの教会、聖職者中心の一方通行的教会から神の民の教会を目

指す教会共同体になりました。

私は叙階されたばかりの新司祭として役務(職位的)司祭職の使命とともに信徒(共通)使徒職についても考えなければならなくなりました。

こういうわけで、今回は神の民としての司祭職について少し話そうと思います。

「賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。務めにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です。しかし一人一人に“霊”の働きが現れるのは、全体の益となるためです。」(1コリント12・4-7)

キリストのすべての弟子は、洗礼によって再生、聖霊によって聖別され、神と人間との仲介者的司祭職を執り行う神の民です。

洗礼によってキリスト者となったすべての信徒は、イエス・キリストの三つの役務である司祭職(祭司職・預言職・王職)を受け継ぎ、叙階による司祭(聖職者)とともにキリストの役務を果たすようになります。

このように、すべての信徒に与えられた司祭職を共通司祭職、あるいは信徒司祭職、基盤的司祭職(sacerdotium fundamentale)と言っています。

この司祭職は洗礼を通して授けられ、メシア的民の一人となり、キリストの神秘体の肢体としてキリストの司祭職に参加することになります。

それで「選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民」[1ペトロ2・9]と呼ばれます。

信徒には固有の召命があり、その召命は、現世的な働きに従事しながら神の国を追求することです。

すなわち、信徒の固有の召命は世間のそれぞれのあらゆる務めと仕事に携わり、家

庭と社会の一般的条件の中で生活するのであり、そこに神から招かれています。

各自の務めを果たしながら、福音の精神・信仰・希望・愛をもって、特に自分の生活を通して、キリストをあかしするよう呼ばれています。

「信徒の共通(信徒司祭職と職位的(役務)司祭職とは、機能的部分を含め、本質において異なるものですが、相互に秩序づけられていて、それぞれ独自の方法で、キリストの唯一の司祭職に参与します。(教会憲章10)」

叙階の秘跡の効力によって役務司祭になったと言っても、司祭が信徒より高位キリスト者となることではありません。

両方とも同一な品位に一致されているからです。もちろん、職位的(役務)司祭職は共通(信徒)司祭職とは違って、キリストの神秘体である信徒を受容するための存在的、

可見的、牧者的司祭職です。

なぜならば、役務(職位的)司祭の役割である神の仲介者としての使命そのものが人々に霊的いのちを生み出すようにする教会の

使命に参加しているからです。

職位的(役務)司祭職は共通(信徒)司祭職の上にたてられています。それで共通(信徒)司祭職を基盤的司祭職(sacerdotium fundamentale)と言っているのです。

司祭と信徒、それぞれの司祭職の遂行方法は違って、同じ召命にあずかっています。このような理由で、神の民のため民の中に存在するキリストの司祭職は一人の個人でなく共同体に与えられる恵みであると言えます。

今回、叙階の秘跡によって私に与えられた司祭職の恵みも今まで私が属している田園調布信仰共同体を通して与えられた恵みであるので、私をキリストの司祭になるよう大切に育ててくださった田園調布共同体の方々に心から感謝を申し上げます。

恵みの時と呼ばれるこの四旬節に各自の生活を振り返って、相応しい心で喜びのうちに復活祭を迎えるよう準備しましょう。

〈信徒連絡会〉二月十日議事録

◎ 竹内主任神父様のご挨拶とお祈り

二月十三日の灰の水曜日から四旬節が始まります。黙想会に参加し、大斎小斎を守って、四旬節をふさわしく準備し、ご復活をよろこびの内に迎えましょう。

◎ 信徒連絡会の趣旨説明

信徒がごなたでも参加でき、意見を反映できるように、会議方法を改めました。連絡事項を発表する場とし、重要な事項は信徒総会で決定していきます。

〔報告事項〕

◎ 新年会(一月一日 十時ミサ後)

約三十名が出席しました。

◎ 成人式(一月十三日)

十一時ミサで祝福し、その後ホールで祝賀会を行いました。対象は十四名で、五名が参加しました。

◎ お餅つき(一月二十日)



おかわりあるのかな？大盛況でした。

◎ 風評被害農家応援セイル(二月二十七日)

ホールにて、二十一回目。塩釜手作り味噌試飲会つきで行いました。

◎ 青年新年懇親会(二月二十七日)

ホールにて、青年会とヨゼフ会青年部の共催で、芋煮で懇談しました。

◎ バザー反省会(二月二十七日)

九時ミサ後に行いました。

◎ 田園調布地区諸教会合同祈禱会(二月二十

七日)(別紙に関連記事掲載)

当日の献金は、アジアキリスト教教育基金、アジア学院、聖母愛児園、ロゴス点字図書館に寄付しました。

◎ 二〇二二年決算と二〇一三年予算承認

一月二十七日に監査、教会委員会で承認されました。

〔今後の行事予定〕

◎ 四旬節・聖週間

灰の水曜日(二月十三日)～四旬節枝の主日(三月二十四日)～聖週間ご復活の主日(三月三十一日)

◎ 四旬節黙想会(三月三日 十時から)

十時から第一講話、十一時からミサ、十二時五十分から第二講話とゆるしの秘蹟です。桑田神父様のご指導です。当日は九時ミサがありません。

◎ ローターションミサと信徒交流(三月十日)

碑文谷↓田園調布↓上野毛↓碑文谷です。

◎ 信徒総会(三月十七日 十一時から)

当日は、九時ミサと十一時ミサを十時ミサの一回に統合し、ミサ後十一時から総会を行

います。会計報告、大聖堂大規模修繕、教会委員任命等を行います。

◎ 全国侍者集会(二月二十五日～二十七日)
今年は例年と異なり志願式や誓願式がないこともあり、すべて瀬田教会で行います。

◎ 洗礼志願式(二月二十四日 十一時ミサ)
洗礼志願者四く五名、改宗者三名、幼児洗礼数名の予定です。

〔検討・審議事項〕

◎ 信徒連絡会の位置づけについて

教会連絡会規則等の改訂を信徒総会にて諮る予定です。組織改定もその際に諮りますので、例年と異なり、教会委員も信徒総会で発表します。

◎ 教会ホームページの刷新について

毎週の「お知らせ」や勉強会の内容など、個人情報に注意しながら充実させていきたいと思っています。三月二十日ごろテストサイト立ち上げ、三月三十一日に本サイト立ち上げの予定です。

◎ 教会案内の改訂について

各委員会、活動会、活動グループの紹介をし

ます。提出期限は三月十日で、できるだけエクセルデータでお願いします。

◎ 行事参加者登録の経過について

教会の様々な行事に企画から参加してくださる方の登録をお願いしています。第一回の締め切りは二月二十日で、現在まで十一名の申し込みがあります。どれかひとつの行事でもかまいません。登録用紙は信徒開館受付と大聖堂入り口にあります。

◎ 大聖堂大規模修繕について(計画検討)

建設から六十年を超え、前回の修繕から十年近く手を入れておらず、老朽化への対応と大震災対策を検討します。大きな金額がかかりますが、積立金を活用したいと思います。工期は四月から十一月で、内容はタイル部の補修、防水、笠木取り付け、防災ガラスへの交換、塗装などです。

◎ オルガン維持について

暖房の影響で乾燥し、パイプオルガンの一部に使えない機能ができています。冷暖房設備の基金に修理代を一部計上していますので、オルガン維持管理計画のプロジェクトを立ち上げます。

◎ 教会学校について

以前は、教会学校も中高生会も自立して行えましたが、今は中高生会メンバーも教会学校のリーダーも減少しており、現状の形で土曜学校を運営できなくなっているため、日曜学校への変更を検討しています。土曜の午後に子供たちの声が聞けなくなることはさびしいですが、子供たちにきちんと信仰を伝えていくことを主眼に考えていきます。

中高生会は、現在二名しか参加していませんが、例えば、任意で参加する会ではなく月一回全員が参加する練成会のような形などを考えています。保護者や関係する方々にヒアリングを行い、安達副委員長がまとめます。

◎ 青年会より

三月三十一日の復活祭に、ミサ後ホールでコンサートを予定しています。

◎ 環境調査について

二月末までの予定で、大聖堂の座席において環境調査(温度、湿度など)を行っています。該当の座席には座れません、張り紙がない座席はご利用いただけます。

◎ 次回は三月十日十時に開催します。

震災から2年（共に歩く信仰年）

柳沢洋子

私は旅行が大好きです。

旅行は帰れるところがあるからこそ、出かけて楽しいと思います。

それゆえに、突然、着の身着のままで家を出て、そのまま帰れる場所も無くなった、あるいは家があるのに帰ることのできない、自分がそんな立場になったらと想像すると、たまらない気持ちになります。あの震災から2年、苦しいことも悲しいことも、それらが期限付きであるなら、まだがんばれましょう。でも、いつになったら「我が家」と呼べる所に帰れるのか分からない方々が、未だ30万人以上もいらつしやることを、東京に住んでいると忘れがちでは無いか、と自分に問います。

被災された方が何かの用事で、近隣の都市や東京に出られると、まるで震災がなかったかのように、皆忘れたのではないだろう

か、と思われるそうです。

今年は信仰年にあたり、各自がそれぞれのタレントと体力にあつた活動を、と求められています。

教会の中での活動も大事ですが、被災された兄弟姉妹（信者であつてもなくても）のために、今年も何か一つの支援やお手伝いをして、気持ちで寄り添うことも信仰年の活動と思います。教会外にも参加できるボランティア活動は沢山あります。

震災から2年が経過し、多くのNGO／NPOが資金不足で被災地から撤退しています。

それぞれが自分の気持ちに合った活動を探してみることも自分の信仰への振り返りになるのではないのでしょうか。

そして物理的、体力的に参加できなくても、最も重要なことは祈りだと思っています。

寄り添う、共に歩く、と言うのは物理的に一緒に歩くことだけではなく、苦しい人たちのために祈り続けることだと思います。

主は苦しむ方と共におられることを私たちは信じているではありませんか。

その主に喜んでいただけるよう、助けたいだけできるよう、心を合わせてお祈りしたいと思います。

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし、

あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けてあなたに平安を賜るように。



ドアの内側に書かれた決意の「帰る」の文字が・・・

福島宮代仮設にて

「シスター弘田しずえ講演会」

客野美喜子

一月十二日、シスター弘田しずえ（ベリス・メルセス宣教修道女会総長・カトリック正義と平和協議会国際担当）をお招きし、講演会「イエスの言葉を今この場で“生きる”ために」を開催しました。（以下、講演の要点を、紹介します）。

私たちは、毎日いろんなことがあつて忙しくて、いつも何かに追われています。立ち止まり、力を抜いて、周りをよく観て、自分が誰なのか、もう一度確かめてみましょう。

「神は、ご自分にかたどつて人を創られた」。創世記にあるように、私たち一人一人が「神の似姿」です。神は愛そのもの。関わりそのもの。一人一人の中に、神の「聖なるDNA」がある。宇宙の始まりから、私たちはそのように創られています。

「互いに愛し合いなさい」。この関わりをどのように生きるかということを、イエスは、とても具体的に、ご自分の生き方と、み言葉をもつて示してくださいました。

「もつとも小さい者の一人にしたのは、私にしてくれたこと」。この世の中で、これを本当に生きるの

は、本当に難しい。「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」。そんなこと、出来るわけない。でも、私たちは神の似姿なのだから出来るはず。そう信じさせていただくことが大事なのだと思います。

「剣をおさめなさい」。イエスが「教会の長」ペトロに最後に言われ言葉。教会に言われた言葉として心に刻みたい。今、人間は、剣どころか核兵器という大量殺戮兵器を持っています。これまでもカトリック教会は核兵器廃絶を訴えてきましたが、今や原発も加わってしまいました。

「私は柔和で謙遜な者である」。世界中で人間は悲惨な殺し合いを続けていますが、命を大切に、何者も傷つけない、それがイエスの非暴力の生き方です。憲法9条は、まさにこの非暴力を「国の在り方」としています。

3・11の後、多くの人が、全てを見直さなければと感じています。地震や津波の被害は甚大だが、原発の被害はもつと深刻。「核の平和利用はありえない」という認識が、世界中に広がっています。日本カトリック司教団も、「経済至上主義ではなく、福音的精神にもとづき、今すぐ原発の廃止を」と呼びかけています。

「自分がしてもらいたいことを、人にしなさい」。私たちが「痛みを感じる心」を大切に、それを社会の在り方として生きたなら、戦争やつらいこともなくなるのではないでしょうか。キング牧師が「最大の悲劇は、善意の人の沈黙と無関心である」と言っています。マスメディア以外の媒体も利用して真実を知るように努めることはとても大事です。

柔和で謙遜な方、イエスは、私たちよりもっと深く平和を望んでいらつしやるはず。だから、「行って、あなたも同じようにしなさい」。この言葉を、もう一度、今日、ここで受け止めて生きたいと思っています。

宇宙の始まりから時空を越えて、今、ここにいるということの神秘。様々な人や出来事に出会い、そこにつながって行くということの大切さ。美しい映像と共に、心に残る2時間でした。3・11から二年。大いに危ぶまれる日本の前途ですが、隣人・社会・世界とつながりながら、この平和を維持し続けていきたいとの思いを新たにしました。
*「講演録」ご希望の方は客野まで
(090-3548-7749) 「ユースの会・地に平和」

田園調布地区のカトリック・プロテスタント六教会（日本基督教団田園調布教会・奥沢教会・玉川平安教会、ルーテル教団田園調布教会、玉川神の教会、当教会）による平和と教会の一致を願う合同祈禱会が一月二十七日当教会を会場として行われ、各教会から二百余名の信徒が出席しました。

この合同祈禱会は四十五年の歴史を持つもので自分も以前参加しましたが、普段敷居が高く、なかなか足を踏み入れる事が出来ないプロテスタント教会に行く良いチャンスだ、程度の意識でしかありませんでした。

同じカトリックの教会ならば、どここの教会に行っても自分の家のように入っていけるのですが、プロテスタントの教会には何故か敷居の高さを感じてました。

同じクリスチャンとして愛と平和を願っていますが、ただ単に「知らない」ことが敷居の高さにつながっているのだと思います。

さて、合同祈禱会は今回の祈禱会の司式司祭を務められた竹内神父の挨拶・集会祈

願から始まり、玉川神の教会のバーナード・バートン牧師が「コリントの信徒への手紙12章12〜20節」の朗読の後説教をいただきました。

朗読いただいた箇所は、当日第3主日の第2朗読の部分で、「私たちはキリストの体の一つの部分である」ということをバートン牧師は、看護士の助手をしていた体験談

合同祈禱会に参加して

ヨハネ富田礼治



も含めてわかりやすくお話いただきました。

教会の一致についても、John TalbotとMichael Cardのカトリックとプロテスタントの男性デュオによる「One Faith」を紹介していただきました。

この曲は、「二人の神、一つの教会、一つの真実」と歌われたもので、you tubeで簡単に出てきますから皆様も是非一度聞いて

みてください。

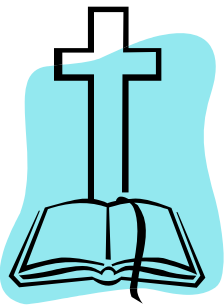
また、バートン牧師は、三十五年前に来日され、日本人との一致を望みながら玉川聖学院で教職を執られ、司牧に務められました。

「キリスト教が真実であり、正しいものならば何故教会が分裂しているのか」とよく質問されたそうです。

人を分裂させる要素は枚挙に暇がありません。我々クリスチャンは、共に祈りあう兄弟姉妹で、主の体の一部分であります。

ミサの際に司祭が祈っておられる「教会に平和と一致をお与えください。」我々はより推し進めていくべきです。

四十五周年を迎えた田園調布地区合同祈禱会、より永く、より深い交流を続けていき、無駄な敷居や壁を取り去ることこそ、主の愛を実現する第一歩なのではないでしょうか。



やよひ

多摩川地区 小林シゲ

春の雨 茶柱立ちて 和みをり

その日の雨は庭の樹木が喜ぶようなやさしく降る雨だった。

パソコンに夢中の主人を呼んでお茶にした所、淡い緑色の中に、

茶柱がしっかりと三本も立っていました。

主人も「おお」といつくしむようにゆつくりと飲んでくれました。

大株のおおかぶ 木瓜に蕾のほけ 犇めけりひし

蕾がふふみ初めて開く前の力の漲る頃も大変見応えがあります。

それがいくつも集まって犇めいておりましたので、ものすごい生命力と明日への希望を感じました。

と見こう見 してめぐり逢ふ 初桜

田園調布の公園を散歩の折、もうそろそろ咲く頃とさがしまし

た所、歩き廻って帰りにかけた時に日の当たる小高い所で四五輪

咲いているのを見つけて喜んだ時の句です。

(お詫び)

先月号の句が間違って掲載してしまいました。



正しくは、「下^{した}萌^もゆる堤^{ひうら}日^ひ裏^{おもて}も日表^{ひおもて}も」です。

お詫びして訂正いたします。

田園編集係

ミサ時間

平日

7 : 0 0

土曜日

1 9 : 0 0

主日

7 : 3 0

9 : 0 0

(子どもと共に)

1 1 : 0 0



4月の初金懇話会はミサ・講演共にお休み致します。

福音宣教委員会